

SPNが合同実務者例会

大阪

関東、中部・関西ブロック 各種施策で意見交換

SPN（北島宗尚社長、東京都中央区）は7月27日、関東ブロック（岩間祐介ブロック長）と中部・関西ブロック（小林則夫ブロック長）が合同実務者例会を大手リビルト部品メーカーのジャパンリビルト（田中勝弘社長、大阪府堺市）で開催した。写真上、会員企業のフロントスタッフや工場長ら実務者39人が出席して開かれた会議では、ジャパンリビルトが行っている自動車部品のリビルトについて回収から生産までの一連の流れについて学ぶ工場見学を実施したほか、リビルト部品の拡販や販売機会を拡大するための各種施策について意見交換を行った。

今回は、関東ブロックから



実務者10人が参加、リビルト部品の販売増に向けて、会員企業が一致協力して推進していくことを確認し合った。工場を見学する前に、ジャパンリビルトの田中社長から会社の概要や歴史、経営理念などが紹介されたほか、安心して自社製品を購入してもらえるよう多くの部品生産で最

新のテスター機器を導入していることなどが説明された。さらに、田中典昭工場長からは顧客から要望が多い30品目について商品化していることや各種アスターを導入して検査体制の強化に努めていることなどが紹介された。

工場見学は本社屋がある小代工場と岸和田工場の2カ所

で実施した。参加者らは、回収したコアを洗浄、分解したあとで消耗部品を新品に交換したり不具合箇所を修正して新品同様にまで再生する過程を視察した。参加者は積極的に質問したり、意見を交わすなど入念に情報収集を行っていた。写真下。

ジャパンリビルトでは最近では分解ができない部品が増加しており、特にCVTの場合には純正部品メーカーから供給されない部品について自社内で製造して組み上げていることなどを明らかにした。

また、クレームを回避するための取り組みでは、軽自動車等で故障しやすいO・センサーをカットで販売したり、故障しやすい部品については交換を推奨するなど多くの故障事例をもとにした修理提案を行っていることを紹介した。

同社では、こうした情報を今後も積極的に開示していく方針で、顧客が直面するトラブルの早期解決に積極的に協力していく考えだ。

SPNでは、こうした取り組みを通じて受講者の知識を高めると同時に、リビルト部品の流通拡大と拡販に取り組み。さらに、ブロック間の交流拡大や会員企業のレベルアップに向けて事業支援を引き続き強化していく考えだ。

13人参加し「初級フロント研修会」知識習得などに励む

SPN（北島宗尚社長、東京都中央区）はこのほど、会員企業のフロントスタッフら13人が参加して「初級フロント研修会」を滋賀県立長浜ドーム宿泊研修館で開催した。

研修は毎年一回開催しているもので、基礎研修会を修了したフロント業務従事者を対象にSPNの「基本理念」や「お客様第一10ヶ条」を考慮した受注対応マナー、基本的な受注システムの使用方法

7日に自動車リサイクルの合同会議
経産省と環境省
経済産業省と環境省による自動車リサイクルの合同会議が8月7日、航空会館（東京都港区）で行われる。自動車リサイクル法の施行状況が報告されるほか、施行状況の評価に関する検討状況、今後の課題などが話し合われる見通しだ。

BEST
Recyclers Alliance

<http://www.best-recyclers.com/>

イン取引の基本ルール習得などを目的に行った。受講者らはフロント業務で不可欠な知識の習得や課題の解決に取り組んだ。写真。

また、10月には初級フロント研修修了者を対象に、システムデータ分析などを中心とした中級フロント研修の実施も予定している。同社では、こうした取り組みを通じて会員事業者のレベルアップと業務品質の向上につなげていきたい考え。